

2011年度 決算説明

(2012年3月期)

取締役社長 渡辺義章

日産車体株式会社

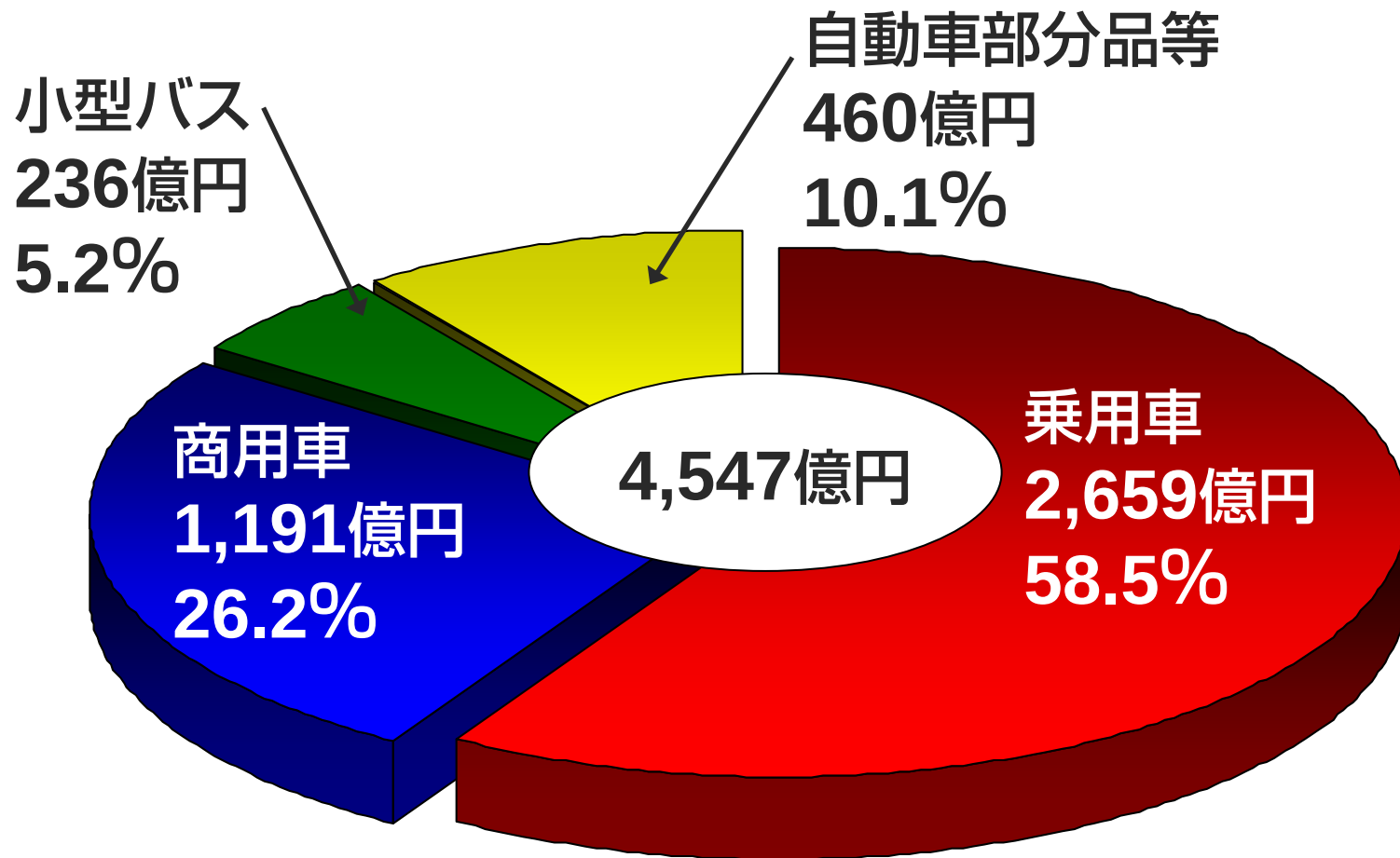
決算ハイライト

生産終了、海外への生産移転、円高などにより、売上台数が減少し、売上高をはじめとする各収益項目において前年同期を下回りました。

(単位: 億円)

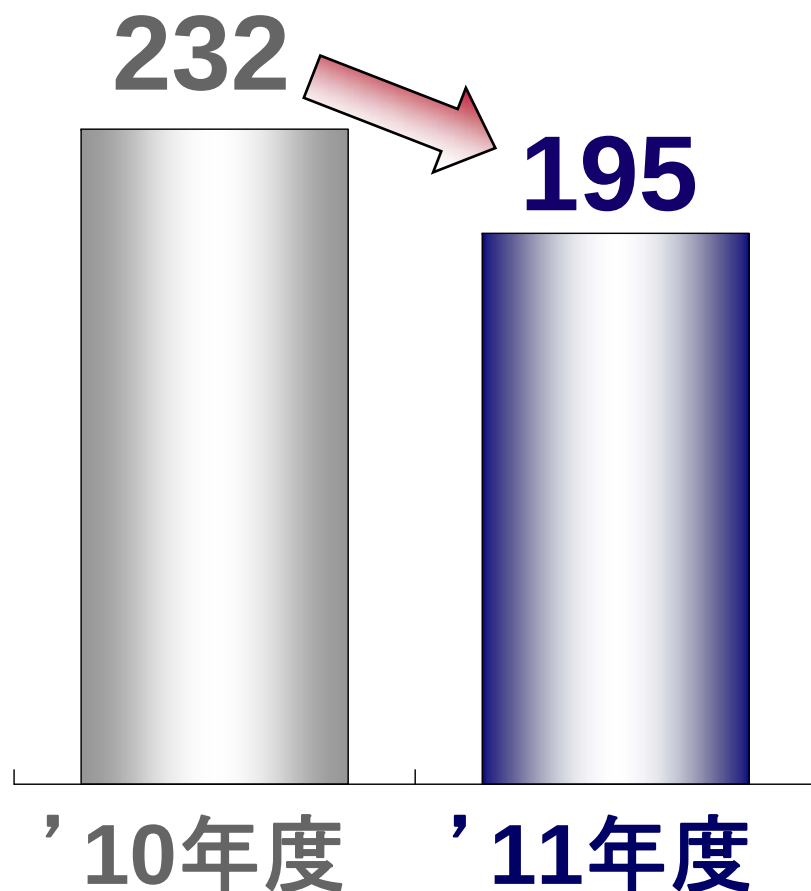
	2010年度 (2011/3)	2011年度 (2012/3)	増減額	増減率
売上高	5,059	4,547	▲512	▲10.1%
営業利益	182	113	▲69	▲37.5%
経常利益	176	108	▲68	▲38.4%
当期純利益	71	64	▲7	▲11.0%
売上台数 (千台)	232	195	▲37	▲15.8%

品目別売上高構成比



対前年同期比

売上台数（千台）



売上台数は前期比15.8%減の
195千台

- 多くの車種が売上台数を伸ばす
- D22ピックアップの海外での現地生産が進み、大幅に販売減
- セレナの生産終了
- 円高によりクエストが大幅減

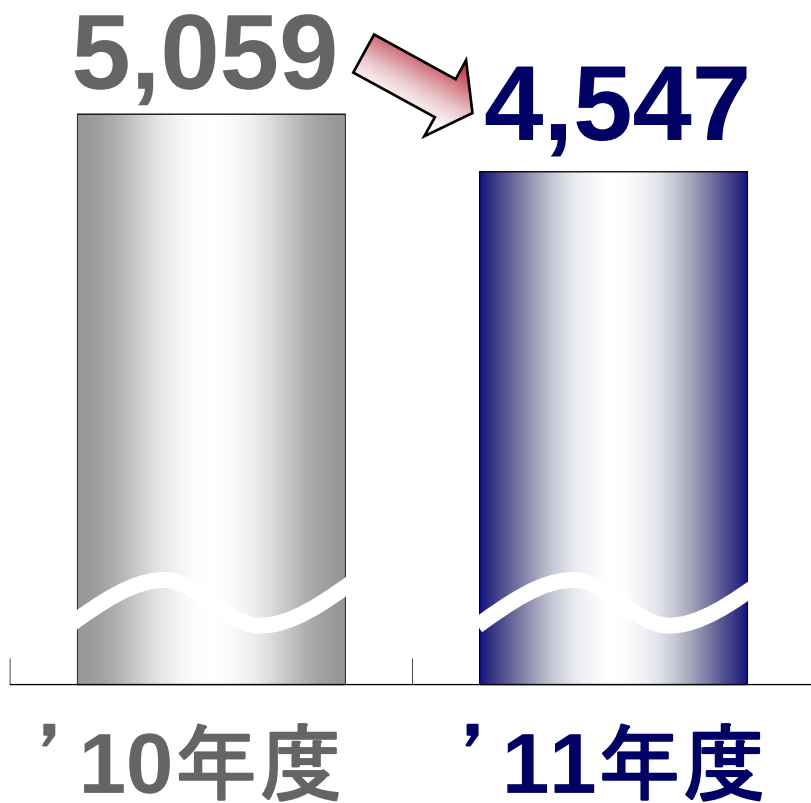
(千台)

	前期実績	当期実績	増減率
乗用車	129	95	▲26.5%
商用車	89	88	▲ 0.7%
小型バス	14	12	▲13.4%
合計	232	195	▲15.8%

対前年同期比

売上高（億円）

連結売上高は前年同期比10.1%減の
4,547億55百万円

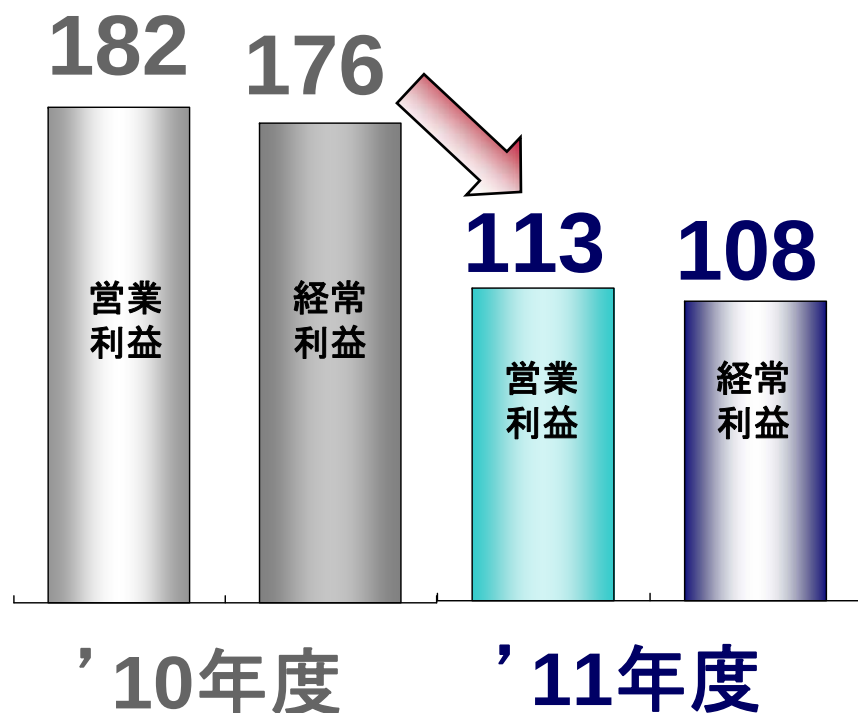


- 売上台数の減少が影響
- 特に「セレナ」の生産終了などにより、乗用車分野の売上高が前年同期比16.9%減
- 商用車分野は、売上台数が減少（0.7%）したものの売上高は、3.0%増

対前年同期比

営業利益/経常利益（億円）

営業利益/経常利益とも前期を下回る



■ 営業利益: 前年同期比37.5%減の
113億74百万円

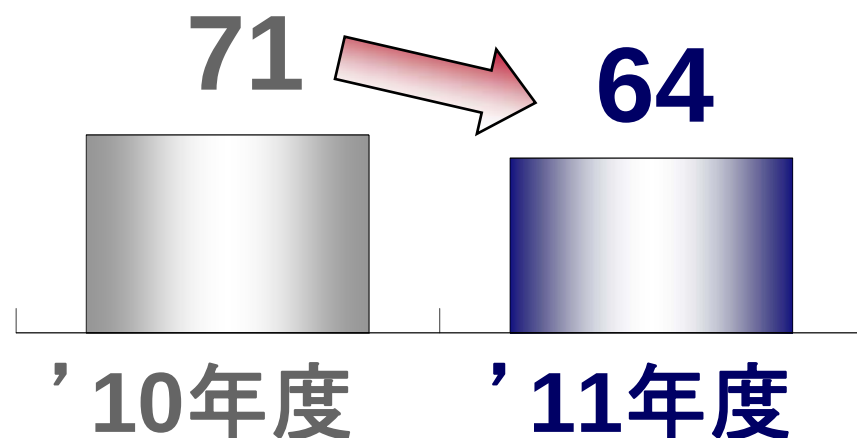
■ 経常利益: 前年同期比38.4%減の
108億91百万円

■ 売上台数の減が影響

■ 原材料やエネルギー価格の高騰
原価率が1.02pt上昇

対前年同期比

当期純利益（億円）



当期純利益は前期比11.0%減の
64億2百万円

- 売上高の減少が影響
- 湘南工場再編等に伴う減損損失を42億円計上
- 投資有価証券売却益を42億円計上
- 前期17億円を計上した資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額について、当期は計上額なし

2012年度 連結業績見通し

計画

売上台数は厳しい環境の中で、新車種の生産スタート、“生産台数の積極的な拡大”への取り組みの加速などにより、前期水準を維持。利益については、新車準備費用の増加などを見込み前期より減益を想定。

(単位: 億円)

	2011年度 (実績)	2012年度 (計画)	増減額	増減率
売上高	4,547	4,940	393	8.6%
営業利益	113	83	▲ 30	▲27.0%
経常利益	108	76	▲ 36	▲30.2%
当期純利益	64	30	▲ 34	▲53.1%
売上台数 (千台)	195	196	1	0.3%